

人権教育推進協議会  
地域・団体推進部会

対話・実践型の人権学習に向けて  
～コロナ明けを契機に地域・団体のシステム改革～

令和6年度の取組がスタートしました。地域や団体では、役職の交代や新規役員の方々を交え、新たな雰囲気の中で組織の改革やアイデアを考案されスタートされたのではないかと思います。コロナも一段落しましたが、コロナ禍で空白になった取組の課題、また、自治会、PTA等への加入者の減少傾向、少子高齢化の深刻化等があります。

そこで、社会・地域情勢が刻々と変化していくことを契機と捉え、地域や団体の具体的な目標やシステム改革を様々な視点で明確化し、一人ひとりが大切にされる地域や団体を模索していく必要があります。

愛荘町人権教育推進協議会では、本年度も今日までの「常識」「当たり前」「普通」等の無意識の思い込みや停滞を振り返り、そうした思考はどこでも存在するものとし、「学び」「気づき」「そして実践へ」と繋がるよう、前向きに働きかけ取り組んでいきます。

本年度は、地域推進部会と団体推進部会を一つの組織にし、地域や団体の課題の違いはありますが、「対話と実践型の人権学習」重視で、「地域・団体の豊かなコミュニケーションと持続可能な地域・団体づくり」をテーマに進めさせていただきます。

【令和6年 新たに購入した人権啓発DVD紹介】 ～学ぶだけでは忘れる。実践は自分の生きる力に～

| No.  | 題名  | 内容   | 映写時間 |
|------|---|--|------|
| 2401 | ハラスメントの裏に潜む「無意識の偏見」<br>アンコンシャス・バイアス<br>《自己が無意識に持つ偏見》      | アンコンシャス・バイアスとは、無意識の偏見や思い込みのことで、日常の何気ない言動の中にも現れ、相手を傷つけてしまう要因になります。職場・地域のコミュニケーション向上のヒントになる作品です。 | 24分  |
| 2402 | 「言葉があるから・・・」<br>「無自覚の差別」<br>マイクロ・アグレッション<br>《自己の持つ差別性を問う》 | あからさまな差別表現でなくても、無自覚に相手の尊厳を傷つけている言動を指す「マイクロ・アグレッション」を学び、職場や家庭内で「人権」について話し合う契機にさせていただける作品です。     | 31分  |
| 2403 | 「いじめ」<br>～それぞれの想い、<br>それぞれの言い分～<br>《今日のいじめ課題》             | 正義感ゆえの言動がいじめに発展してしまう事例が増えていると言われています。相手の非を許すことができず、対話がないまま制裁的にいじめをしてしまうという事例から始まります。           | 23分  |
| 2404 | 「お父さんへの千羽鶴」<br>《戦争と平和アニメーション》                             | 現在の平和は、尊い犠牲の上に成り立っている。平和を守るためにどうすべきか、次代を繋ぐ子どもたちに考えてもらいたい作品です。                                  | 14分  |
| 2405 | 「ええことするのは、ええもんや!」<br>《道徳アニメーション》                          | 「相手の側に立った思いやり」やボランティアって誰のためにするものなのか等、子どもたちが考え話し合い、実践するための道徳教材です。                               | 14分  |
| 2406 | 「破戒」<br>《部落問題の根底を探る》                                      | 一度は観ておきたい島崎藤村、不朽の名作「何故自分の故郷を語れない。何故好きな人に気持ちを伝えることが出来ない。」を映画化したもの。                              | 119分 |

子どもなんでも相談室



「特性配慮について①」

今回は、発達特性を強く持つ人に対して配慮していただきたいポイントをいくつか紹介します。

まず、発達特性とは、生まれつき脳の働き方のタイプの違いにより、物の捉え方や行動に特徴があることをいいます。これは、本人の個性でもあり、必ずしも「発達障がい」ではありません。「発達障がい」は生まれつきみられる脳の働き方の違いにより、本人の特性と周りの環境とのミスマッチが起こり、困りごとや生きづらさが生じている状態のことをいいます。この状態になると、身近な人がどう関わっていいかわからなかったり、本人自身が生きづらさを感じたりすることがあります。落ち着きがなかったり、こだわりが強かったりして、対応が難しいこともあるでしょう。大切なことは、「その子が何に困っているかを理解する」ことです。障がいの種類や程度によって、また、年齢や性格などによっても現れ方は異なります。生活の中で困難なこと、苦手なことも一人ひとり違います。そのため、一人ひとりの特徴に応じた配慮をし、支援していくことが重要です。

- 善悪やルールをはっきりと教える  
暗黙の了解や社会のルールがわからないことがあります。いけないことや迷惑なことは、はっきり教えましょう。注意したり、叱ったりするのではなく、「具体的にどうしたらよいのか」を伝えましょう。
- あたたかく見守る  
子どもが騒いだり、パニックを起こしたりしているとき、周りの目もあり、叱ることが多いと思います。しかし、子どもの中には、「少しの時間待つことで、無理に叱るよりも早く混乱から抜け出せる」ことがあります。指示やサポートをしすぎて、それが逆にイライラの原因になっていたり、刺激になっていたりすることもあるのです。

子どもから大人になるまで、身近にいる人が本人の特性を理解していることがとても大切です。学校で困ったことが起こっているときは、子どもにとってどんなことがストレスとなっているか、相談しながら考えていきましょう。学校や当センター、その他の関係機関など、皆で一緒に対応を考えていくことができますので、まずは、相談しやすい方にお話ししてみてください。

参考：厚生労働省『政策レポート（発達障害の理解のために）』

☎健康推進課 子育て世代包括支援センター  
☎0749-42-7661



歯と口の健康習慣 ～噛むことの大切さを知ろう～

歯を強くするカルシウムが多い食べ物

歯のおもな構成成分はカルシウムです。カルシウムは、牛乳・乳製品や小魚、青菜などに多く含まれています。カルシウムは日本人が不足しがちな栄養です。意識してとるようにしましょう。



現在の食事はかむ回数が減っている

昭和初期の食事は、かみごたえのある野菜や豆類が多く使われていたといわれています。現在の食事はかみごたえのあまりない、やわらかい食品が多く、かむ回数が減ってきています。



☎愛荘町給食センター ☎0749-42-2644